

# アクセシビリティを考慮したサイト制作

2番 安部 勇

## 【目的】

インターネットの普及により多くの人がウェブサイトにもふれる機会が多くなった。障害者や高齢者のインターネット利用も増加しており、ウェブサイトに対するアクセスのしやすさなどが重要視されるようになった。2004年6月20日には「どのような人でも使いやすい」＝アクセシビリティの確保を目的とした通称「ウェブコンテンツJIS」が制定され自治体などのサイトもこの規格を適応させる必要がでてきた。そこで、不特定多数がアクセスする自治体のサイトをJIS規格に準じながらアクセシブルなサイトを制作していく。

## 【方法】

現在のウェブサイトと改良したウェブサイトのアクセシビリティについて「WebInspector（富士通社製）」で検証し、その結果を比較しながら（図1参照）、問題点を整理しその部分を改良してアクセシブルなサイトにする。

### ・過程



## 【解決策】

ウェブサイトを作成するうえで考慮しなければならない項目の中でも優先順位が高い問題点についての解決策

### ・他のページに移る際に新規ウィンドウが開かれ、操作に戸惑う

視覚障害者や高齢者は、突然新規ウィンドウが開くと操作に戸惑うことや気づかない場合がある。肢体障害者の場合はウィンドウを閉じることが負担になる。同一画面で表示させることで操作に戸惑いをなくし、負担を減らすことが出来る。その際、階層が深くなりサイト内で迷ってしまうがトピックパスを使用することで現在位置を知ることが出来る。（図2参照）

### ・全体のレイアウトにテーブルを使用している

現在のページではテーブルを使用したレイアウトになっているが、これだと音声ブラウザなどで読ませた場合正しい順序（読ませたい順序）で読まないため、CSS2.0を使用してレイアウトすることで正しい順序で読ませることが出来るようにする。（図2参照）

## 【考察】

今回は米沢市のサイトを取り上げて制作を行ったが、ここで使用されている技術は他の自治体サイトでも適用でき、ある程度のテンプレートさえあればアクセシブルなサイト制作は可能だと感じた。また、サイト制作の場では、アクセシビリティの要項を文章化し、周知徹底させればサイト全体のアクセシビリティは長期間維持させることが出来るのではないかと思った。

図1 現在サイトとデザイン案との比較

図2 解決策の説明図